

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したので送付します。

平成28年度病害虫発生予報第5号

平成28年8月3日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	並
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	並
	紋枯病	—	やや多
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	やや遅	やや少
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	並	並
	イチモンジセセリ	—	並
	コブノメイガ	—	少
カメムシ類	—	やや少	
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	並	やや多
モモ	モモハモグリガ	遅	少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや少
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	—	やや多
	べと病	—	やや多
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	並 やや多 やや多
トマト	疫病 葉かび病	並 遅	やや多 並
ダイコン	軟腐病	—	やや多
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや少
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — 並	やや多 やや少 やや多
キク	ハダニ類	やや遅	やや少

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は52.8%で平年(52.1%)並であった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では初発後の病勢進展が速いので、早期発見に努める。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は20.0%で平年(18.9%)並で、中部地帯は41.7%で平年(45.7%)並であった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちが多発するなど穂いもちの多発が予想される場合は、液剤または粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. イネの茎数は概ね平年並である。

イ. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は15.6%で平年(18.4%)並であった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(5) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ:早生種、中生種)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生は認めず、平年(9.4%)より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(6) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月25～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、8頭で平成(87.4頭)より少なかった。

イ. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平成(52.4%)並、すくい取り(20回振り)調査での成幼虫数は30.1頭で平成(34.1頭)並であった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、0頭で平成(0.2頭)並であった。

イ. 7月25～26日の巡回調査において、平成同様発生を認めなかった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 圃場をよく観察し、本虫を確認したら直ちに防除を徹底する。

イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ(第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平成(6.9%)並であった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は4.4%で平成(40.0%)より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月19日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)によると、アカスジカスミカメの成虫数は39.7頭で平成(167.1頭)より少なか

った。

イ. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は348頭で平年（492.4頭）よりやや少なかった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は368頭で、平年（166.0頭）より多かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年（93.9頭）より少なかった。

イ. 7月22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（4.1%）より低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平年(2.1%)よりやや高かった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月29日の県予察圃場での発病葉率は22.5%で、平年(61.6%)より低かった。

イ. 7月21~22日の巡回調査によると、発生圃場率は83.3%で平年(69.9%)よりやや高かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月29日の県予察圃場での発病葉率は48.6%で、平年(20.3%)より高かった。

イ. 7月21~22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(40.7%)よりやや高かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高いとされており、気温が高い場合は発生を抑制する条件となる。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月29日の県予察圃場での発病葉率は47.0%で平年(12.4%)より高かった。

イ. 7月21~22日の巡回調査によると、発生圃場率は66.7%で平年(51.2%)よりやや高かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年（1.0%）より高かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) 葉かび病

予報内容

発生時期 遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（14.4%）より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年（36.3%）よりやや高かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が25.0%で平年（39.5%）よりやや低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は45頭で平年（60.0頭）よりやや少なかった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が50.0%で
平年(31.3%)よりやや高く、キュウリでは100%で平年(26.1%)より
高かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は
平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、露地野菜(ナス、キュウリ)での
発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は
平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)のフェロモントラップにおける7月1～5半旬
の誘殺数は368頭で、平年(166.0頭)より多かった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生
を認めなかった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は
平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

4 花き類

(キク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(10.7
%)より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年並か高く、降水量は
平年並か多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。